写真で見る大阪港と夢洲

15 日にレポートしたように、「新聞うずみ火」スタッフと夢洲を視察した。さきしま展望台から夢洲などを眺めたが、大阪港湾局が 2020 年 10 月に発行したパンフレットに大阪港全景の写真が掲載されていた。

大阪港は大阪市の西部に位置し、北は神崎川をはさんで兵庫県に、南は大和川を挟んで堺市に接している。臨港地区は 1979.1ha、港湾区域は 4684ha である。

大阪港は安治川などに沿って、市街地の奥深くまで展開している。大阪湾前方には埋立地が広がっている。埋立地面積は舞洲約 220ha、咲洲（南港地区）約 1045ha、夢洲約 391ha、新島地区約 204ha。2 枚目の写真で、右上が新島地区、その下が夢洲、舞洲、左上が咲洲である。

夢洲には夢咲トンネルを通って車で上陸したが、工事の関係で途中までしか入れず、全体像をつかめなかった。3 枚目の写真から 1 年ほど前の様子が何とかわかる。万博会場予定地や IR カジノ誘致予定地が並んでいる。この写真で注目したいのが夢洲コンテナターミナルである。

「岸壁延長 1350m の高規格コンテナターミナル 3 バース一体運用で効率的なターミナル運営」と。夢洲コンテナターミナル C - 10～12 においては、メガオペレーターである夢洲コンテナターミナル株式会社が一体運営し、バースウィンドウやヤードプランニングを一元的にコントロールすることにより、効率的なコンテナ荷役を実現。C - 10 と 11 は 2002 年 9 月、C - 12 は 2009 年 10 月に供用開始。2017 年 2 月には、C - 12（延伸部）岸壁の運営を開始しており、引き続き岸壁背後のコンテナヤードの整備を進めている。水深 15～16m で、大阪港のなかで重要な役割を果たしている。

この写真を見ていて、万博会場建設から万博期間中、IR カジノ誘致が決まった場合の夢洲の状況を考えると、物流機能を担うコンテナターミナルが心配になってくる。

（2021 年 12 月 21 日）